

GLOBAL TIMES VOL.5

能勢高校SGH中間発表会

11月22日（金）、能勢高校SGH中間発表会を、能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第14回 研究発表会と併せて能勢ささゆり学園にて開催しました。

前半は各教室で公開授業が行われ、SGH講座では、本校1年次生が中学3年生と一緒に、英語での相互インタビューやビンゴゲームを通して、楽しみながら動詞の学習をしました。後半は全体会を体育館にて行いました。全体会第I部では、オープニングで小学6年生全員による能勢人形浄瑠璃「能勢三番叟」が演じられ、受け継がれる郷土芸能の素晴らしさに会場からは大きな拍手が送られました。次に本校「スーパーグローバルスタディ」選択生徒2年次生11名が、『モンゴル課題研究の中間報告～モンゴル海外実態調査を通じて～』



と題して、プレゼンテーションを行いました。最初に、8月に約1週間にわたって訪問し実施したモンゴル海外実態調査について英語で発表し、数々の写真を紹介しながら現地の様子を説明しました。自分たちが感じたことを、大勢の前で臆することなく英語で発表することができました。次に、現在取り組んでいる「シャーマルの養蜂」についての課題研究を日本語で発表しました。養蜂の専門用語の解説や能勢とシャーマルのやり方の違い、養蜂のメリット、現地の人々の意見などをポインターで指し示しながら丁寧に説明しました。

生徒たちの発表後、運営指導委員の方々等から指導講評を頂きました。「努力を重ねてきた自信が雰囲気に出ているし、英語が自分たちのものになっている。地域活性化と国際貢献を結びつけることができている、その成長ぶりに驚いた。」というお言葉や「以前より声が大きくなり堂々としている。既存のイメージや既成概念を壊すためにいろいろな人と会うことで、自分たちの可能性がより広がっていくだろう。」といったご意見をいただき、生徒たちも自信がついた様子でした。

全体会第II部では、SGH来賓として在大阪モンゴル国総領事館からお越しいただいたアルザフガイ・デルゲルマー副領事からご挨拶とモンゴルの紹介をしていただきました。副領事から、モンゴルの壮大な風景写真や、あるモンゴル人高校生が製作したCGとダンスを融合させた動画作品の紹介があり、「モンゴルが民主化したことでグローバル化が進み、様々な国の人や文化と繋がるできるようになった。SGHのような取り組みをモンゴルでも行いたい。草の根の交流が平和への第一歩だ。」というお言葉をいただきました。

最後に、元在大阪モンゴル国名誉領事でモンゴル国文化大使である佐藤紀子さんより『海のない国モンゴル～SGH課題研究から見る文化と教育～』と題して、記念講演をしていただきました。佐藤さんがモンゴルとの関わりを持つようになった経緯にはじまり、26年前にモンゴルが社会主義から民主主義国家へと転換するなかで経験された様々な出来事や感じたこと、また、一度は失われてしまったモンゴル文化を再興するために尽力された初代大統領オチルバルト氏のお話など、貴重な体験談を語ってくださいました。そのなかで、国境を越えた交流は『ひと』と『ひと』の繋がりから全てがはじまるという考え方とともに、グローバルな視点で問題を考察し相手の立場に立って考えることの重要性をお話しされました。



講座と講師の紹介 (Lecturers)

◆ 1年 SG 基礎知識講座

第5・7・8回 『国際理解；「モンゴルの今を生きる」』～モンゴルでの生活、異文化に触れる～

●野本 悠紀子 さん (大阪大学 4 回生 外国語学部 外国語学科 モンゴル語専攻)

モンゴルについて自身の体験から感じたことやモンゴルがより身近に感じられたエピソードなどをお話いただきました。また、ワークショップでは文化祭に向けた羊のマスコット製作をご指導いただきました。



第6回 『バックパッカーから能勢の古民家へ』～世界から地域へ～

●三上 順子 さん (能勢農家民宿「みちくさ」オーナー)

9月12日(月)、世界を放浪したバックパッカーとしての体験談をお話いただきました。グローバルな視点で日本の文化や価値観を捉え、日本の自然や文化の豊かさ、能勢の素晴らしさについて考える機会となりました。



第9回 『内閣府から東日本大震災後の陸前高田副市長へ』～復興への取組みをグローバルな視点から捉えて～

●久保田 崇 さん (立命館大学教授 公共政策大学院公務研究科)

10月13日(木)、内閣府とは何か、またケンブリッジ留学中の体験談などをお話いただきました。また、東日本大震災後の陸前高田副市長として復興に取り組みされたお話を伺い、問題をグローバルな視点、そして様々な角度から捉えることの重要性を学びました。



第10回 『都市再生のランドスケープ』

●中橋 文夫 さん (公立鳥取環境大学 教授)

11月7日(月)、緑の持つ力をお医者様の力と捉え、緑が様々な大地の病(自然災害や人災)を予防し環境を還元していることを学びました。韓国の清溪川(チョンゲチョン)の都市整備事業の例を通して、自然と人の共存がいかに重要かを学ぶ貴重な機会となりました。



第11回 『国際理解「青年海外協力隊の活動を通して」』

●河合 憲太さん (青年海外協力協会 近畿支部)

11月10日(木)、JICAや青年海外協力隊の活動や役割を学び、自身が青年海外協力隊として派遣されたインドネシアの街の様子や食べ物、また活動内容や苦労したことなどをお話いただき、世界には自分たちが当たり前に行っていることに不自由している人たちがいることを改めて感じました。



◆ 2年 SG 基礎知識講座

第4回 『パームオイルとボルネオ環境保全活動』～未来を創るのは人間～

●小辻 昌平 さん (サラヤ株式会社 総務人事本部 CSR推進部 兼 総務部 専任課長)

9月7日(水)、マレーシアの歴史や文化などの紹介とともに、プランテーション化によってボルネオ島の熱帯雨林の乱開発が進み生態系へ多大な影響がでている現状、そして「ヤシノミ洗剤」で知られるサラヤ株式会社が環境と産業の両立のために取り組む熱帯雨林保全活動についてお話いただきました。



第5回 『マレーシア熱帯雨林の生態系について』～日本とマレーシアの関わり～

●乾 陽子 さん (大阪教育大学准教授 自然研究講座 化学生態学研究室)

10月5日(木)、東南アジアの熱帯雨林は、世界的にも森林の歴史が古く生物多様性に富む一方、人間が森をプランテーション化したことによって原生林はほとんど失われ、深刻な生物の絶滅が進んでいるという衝撃的な現実を学び、自分たちに何ができるかを考える良い機会となりました。





第6回 『異文化理解・多文化共生』～「生活者」の側から見た日本の『多文化共生』～

●中村 綾 さん (公益財団法人箕面市国際交流協会職員)

10月13日(木)、箕面市国際交流協会での仕事を通して、またご自身の国際結婚で外国人の夫と母と暮らすことで実感された真の「多文化共生」についてのお話をいただき、互いに相手の気持ちを知る努力や忍耐も肝要であることを学びました。



第7回 『アメリカの人種問題と人権』～多民族国家での人権～

●荻野 克彦 さん (公益財団法人箕面市国際交流協会 理事〈前理事長〉)

11月16日(木)、6年間アメリカで仕事をされていた経験から「黒人差別」、「アメリカの強さ」について語っていただきました。人権、自己理解、他者理解など、グローバルな感覚を磨く大変貴重な機会となりました。

◆2年SG重点分野講座

第25・29・38回 『アクティブラーニング(AL)』～コミュニケーションデザイン～

●藤岡 慎二 さん (能勢町魅力化コーディネーター・島根県立隠岐島前高校教育ディレクター)

アクティブラーニングとして、リーダーシップとは何か、またリーダーシップに必要なものは何かを学びました。また、グローバル人材となるために、問題を発見し解決する能力を養うことの重要性を体系的に学習しました。



第26回 『海外での生活環境と経済活動』～日泰修好130年！日本とバンコクの架け橋を目指して～

●月田 有香 さん (Cheers Inc. 代表取締役・女優)

8月31日(水)、タイと日本を行き来し人材育成の仕事をする月田さんより、タイの文化や国民性を学び、今後は支援でなく`Win-Win`の関係が重要だと学びました。また、ジャパンエキスポタイランド2017で能勢高校がブースを出すと想定したワークショップも行いました。



第27・28・30・31・32・33・35・36・39・40・42 課題研究講座

『モンゴルの環境と経済活動』～モンゴル海外実態調査を通して～

●今岡 良子 さん (大阪大学准教授 言語文化研究科)

モンゴルの首都ウランバートルのマンホールチルドレンについて、またセレンゲ県シャーマルと能勢の養蜂を通して地方創生について課題研究を進めています。講義やワークショップを通し、グローバルな課題に対してローカルな視点で捉える力、またチームワークやリーダーシップを養います。最終発表のプレゼンテーションに向けた準備を進めています。



第34回 『持続可能なビジネスの作り方』～グローバルな視点でローカルを突き詰める～

●濱口 香織 さん ((株)マザーハウス 梅田蔦屋書店 店長)

10月12日(水)、発展途上国におけるアパレル製品の企画・生産・指導から先進国での販売を手がける(株)マザーハウスの事例を紹介され、持続可能なビジネスに必要な不可欠な要素を学びました。その後のワークショップでは、能勢とシャーマルのブランド化に挑戦しました。



第37回 『ユニセフの地球規模問題解決法』～私のライフスタイルから世界をかえていく～

●久木田 純 さん (関西学院大学 教授、ユニセフ 前事務局長)

11月2日(水)、国連(ユニセフ)職員として勤務してこられた久木田さんから、国連の問題解決方法を途上国への支援を通して学びました。また、ワークショップを通して一人一人が問題意識を持って行動することの重要性を学びました。



第41回 『地域に活かすSGH課題研究』～モンゴルでの学びを能勢に活かす

●斉藤 俊幸 さん (地域再生マネージャー)

11月12日(土)、キルギスのハーブの商品化の具体例を出しながら「一村一品運動」や「フェアトレード運動」の話がされました。キルギスでの体験談も交えながら、地域ビジネスモデルのグローバル展開という視点から、本校SGHの課題研究の大きなヒントになる話題をご提供いただきました。



第43回 『モンゴルのストリートチルドレン』～モンゴル海外実態調査を通して～

●中島 早苗 さん (NGOフリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTGJ) 代表理事・事務局長)

11月30日(水)、モンゴルのストリートチルドレンの最近の状況と国の政策をパワーポイントやビデオで紹介していただきました。後半は、グループ別課題研究の「モンゴルのストリートチルドレン」を研究テーマにしているグループのプレゼンテーション作りを指導していただきました。



◆3年SG基礎知識講座

第2回 『フランスのコロプリエール村を訪ねて』

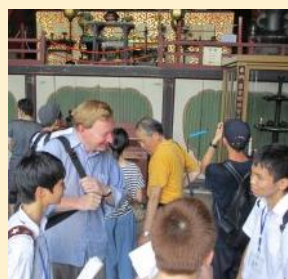
●三上 順子 さん (能勢農家民宿「みちくさ」オーナー)

11月17日(木)、フランスの南部にある人口2千人の小さな農村コロプリエールを訪れ「栗まつり」に参加した体験を話していただきました。栗まつりの間には国内外から7万5千人の人々がこの村を訪れ、マルシェ(市場)が開かれ村に多くの収入をもたらすという内容で、地方創生の例を学ぶ良い機会となりました。



校外学習・国際交流

■奈良東大寺で観光ガイドにチャレンジ! (大阪国際大学ワークショップ)



8月26日(金)、英語プレゼンテーション力を高めるため高大連携校の大阪国際大学との観光通訳体験ワークショップを開催しました。今回は、本校1年次生で「スーパーグローバル英語プレゼンテーション講座」を受講する12名と大阪国際大学の学生が参加し、奈良東大寺を訪れました。午前、大阪国際大学のロジャー先生から東大寺の歴史や見どころについての英語講座を受けた後、グループに分かれて自己紹介や役割分担などを行いました。

午後、各グループは、東大寺の入り口で外国人観光客に英語によるボランティア通訳案内を申し出て、大仏殿を英語で案内する異文化交流にチャレンジしました。このワークショップによって、SGSで培った英語でのプレゼンテーション力やコミュニケーション力を試す良い機会になりました。

■けやきの里で英語案内(インバウンドモニターツアー)

11月11日(金)、「スーパーグローバル英語プレゼンテーション講座」を受講する1年次生が天然記念物「野間の大けやき」や能勢の概要についてアジア諸国からの留学生や社会人の前でプレゼンテーションを行いました。簡単な自己紹介の後、「野鳥の会」の宮脇先生より大けやきに生息するフクロウについて説明していただきました。そして、グループに分かれて英語によるプレゼンテーションや相互インタビューを行い、最後に記念写真を撮って充実した国際交流のひとつを過ごしました。



■2016 草原のかぜ モンゴル祭(在大阪モンゴル国総領事館主催)に参加

11月27日(日)、大阪市のうつボテニスセンターで開催された「2016 草原の風モンゴル祭」に、能勢高校2年次生のSGSチームが参加しました。8月に行ったモンゴル海外実態調査の展示や来場者の前でモンゴルについての課題研究の発表を行い、聴衆からの質問に答えました。日ごろの練習の成果を試す良い機会となりました。



*モンゴル祭とは…毎年在大阪モンゴル国総領事館の主催で開かれ、モンゴルに関わる様々な団体が参加し、民族音楽の公演やモンゴル料理の屋台などが並び催事です。